

茨城県の経済動向（茨城経済四期報 平成20年1～3月）

～本県の経済は、このところ弱含みながら、  
緩やかな回復基調を続けている～

この茨城経済四期報は、茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し、これまで県等で公表された当該分野の各主要経済指標の数値変動をもとに、本県における最近の経済状況をマクロ的視点から、限られた統計データ分析範囲の中で、概観的にまとめたものです。

**概 況**

本県経済は、このところ弱含みながら、緩やかな回復基調を続けている。

本県の最近の経済動向をみると、生産活動は増加基調にかげりがみられ、消費は一部に弱さが見られるものの前年水準を上回って推移している。住宅投資は低調であるが、公共投資は前年水準を上回っており、民間設備投資は、増加見込みを維持している。また、雇用・労働はおおむね横ばいの動きとなっている。一方、景気ウォッチャー調査による景況感、家計動向関連、企業関連、雇用関連がいずれも低下し、全体としては弱含みとなっている。3月の景気動向指数（一致指数）は、景気が上昇・下降の境目である50%を2か月連続で下回っている。県民経済計算四半期速報による実質経済成長率は、2四半期連続プラス成長となっている。

**景 況 等**

- 景気ウォッチャー調査3月実施の現状判断DIは、前期（12月調査）比3.9ポイント低下の36.5となり景気の横ばいを表す50を3期連続で下回った。これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが前期比で下回った。
- 景気動向指数3月の一致指数は42.9%となり、2か月連続で50%を下回った。  
〈※国の景気動向指数3月の一致指数は33.3%と2か月ぶりに50%を下回った。〉
- 県民経済計算四半期速報（平成19年10～12月期）の実質経済成長率は、前期比プラス0.2%（年率換算+1.0%）となり、2四半期連続プラス成長となっている。  
〈※国の実質経済成長率（平成19年10～12月期）は、+0.9%と2四半期連続プラス成長となっている。〉

**生産活動** …増加基調にかげり

- 鉱工業生産指数3月（平成12年=100）は110.4（季調済）で前月比0.4%低下、前年同月比（原指数）1.8%上昇となった。四半期ベースで見ると1～3月期は、前年同期比（原指数）では9期連続で前年水準を上回ったが、季調済指数で110.2と前期比2.4%低下し、平成17年7～9月期以来の減少となった。  
〈※全国の鉱工業生産指数3月は106.5（平成17年=100、季調済）で前月比3.4%低下となった。原指数では前年同月比0.7%低下となり平成17年7月以来の減少となっている。〉
- 大口電力使用量3月は、前年同月比6.1%増と23か月連続で前年水準を上回った。食料品製造業は17か月、化学工業が15か月連続で前年水準を上回り、製造業計では28か月連続で前年水準を上回っている。

**消 費** …一部に弱さが見られるものの、前年水準を上回って推移

- 大型小売店販売額3月は、前年同月比6.2%増と8か月連続で前年水準を上回った。内訳を見ると、百貨店販売額が2か月ぶりに前年水準を下回ったが、スーパー販売額は8か月連続で前年水準を上回った。既存店ベースで見ると、大型小売店販売額3月は、前年同月比0.1%増と2か月連続で前年水準を上回った。  
〈※全国の大型小売店販売額3月は、前年同月比1.8%増と2か月連続で前年水準を上回った。〉

- 自動車新規登録台数3月は17,637台で、前年同月比7.4%減と3か月ぶりに前年水準を下回った。貨物車・特殊車を除いた乗用車で見ると、普通乗用車（2,000cc超）は、前年同月比0.5%減と8か月ぶりに前年水準を下回り、小型乗用車（2,000cc以下）は2か月連続で、軽乗用車も3か月ぶりにそれぞれ前年水準を下回っている。
- 二人以上世帯の勤労者世帯消費支出3月（水戸市）は、前年同月比11%減と3か月連続で前年水準を下回った。四半期（1－3月期）ベースで見ると3期ぶりに前年水準を下回った。  
〈※全国の勤労者消費支出3月は、前年同月比1.1%増と4か月連続で前年水準を上回った。〉

#### 民間設備投資 …全体としては増加見込み

- 法人企業景気予測調査3月では、19年度下期の設備投資計画額は、全産業で前年同期比10.3%の増加見込みとなっている。19年度通期は、全産業で前年比21.6%の増加見込みとなっている。20年度通期は、全産業で減少見通しとなっている。

#### 建設投資 …住宅投資は低調、公共投資は前年水準を上回る

- 新設住宅着工戸数3月は、1,340戸・前年同月比43.8%減と2か月連続減となった。四半期ベースで見ると3期連続前年同期比で下回っている。  
〈※全国の新設住宅着工戸数3月は、前年同月比15.6%減と9か月連続で前年度水準を下回っている。〉
- 公共工事請負額から公共投資の動向をみると、3月は前年同月比10.9%増と3か月連続で前年水準を上回り、四半期（1－3月）ベースで27.3%増と3期ぶりに前年水準を上回った。年度累計では4.1%増と2か年度連続で前年度水準を上回っている。

#### 雇用・労働 …おおむね横ばいの動き

- 新規求人数3月は、前年同月比16.2%減と8か月連続で減少、新規求職者数3月は前年同月比7.2%減と2か月ぶりに減少となり、新規求人倍率（原数値）は1.16倍と23か月連続1倍超で推移している。
- 雇用保険受給者実人員3月は、8,199人で前年同月比10.0%減と65か月連続前年水準を下回っている。
- 常用労働者の現金給与総額（事業所規模30人以上）2月は、対前年同月比0.6%増と3か月連続で前年水準を上回った。きまって支給する給与（事業所規模30人以上）は、対前年同月比0.7%増と13か月連続で前年水準を上回った。

#### 前回（平成19年10～12月）の茨城県の経済動向概況

本県経済は、このところ弱含みながら、緩やかな回復基調を続けている。

※ 参考：最近の国内経済の動向（内閣府「月例経済報告」平成20年5月22日）

### 総論（我が国経済の基調判断）

景気回復は、このところ足踏み状態にある。

- 輸出は、伸びが鈍化している。生産は、横ばいとなっている。
- 企業収益は、弱含みとなっている。設備投資は、おおむね横ばいとなっている。
- 雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みが見られる。
- 個人消費は、おおむね横ばいとなっている。
- 住宅建設は、おおむね持ち直してきたが、このところ横ばいとなっている。

先行きについては、改正建築基準法施行の影響が収束していくなかで、輸出が増加基調で推移し、景気は緩やかに回復していくと期待される。ただし、サブプライム住宅ローン問題を背景とするアメリカの景気後退懸念や株式・為替市場の変動、原油価格の動向等から、景気の下振れリスクが高まっていることに留意する必要がある。